

救護施設先駆的実践シェア事業

フードバンク事業の取り組み

社会を良くするたしかな一歩



赤い羽根
福祉基金

社会福祉法人三松会

救護施設フルーツガーデン

施設長 蓼沼美智代

法人概要

社会福祉法人 三松会

理事長 塚田一晃

救護施設フルーツガーデン

施設長 蓼沼美智代

住所

栃木県佐野市犬伏上町2798番地



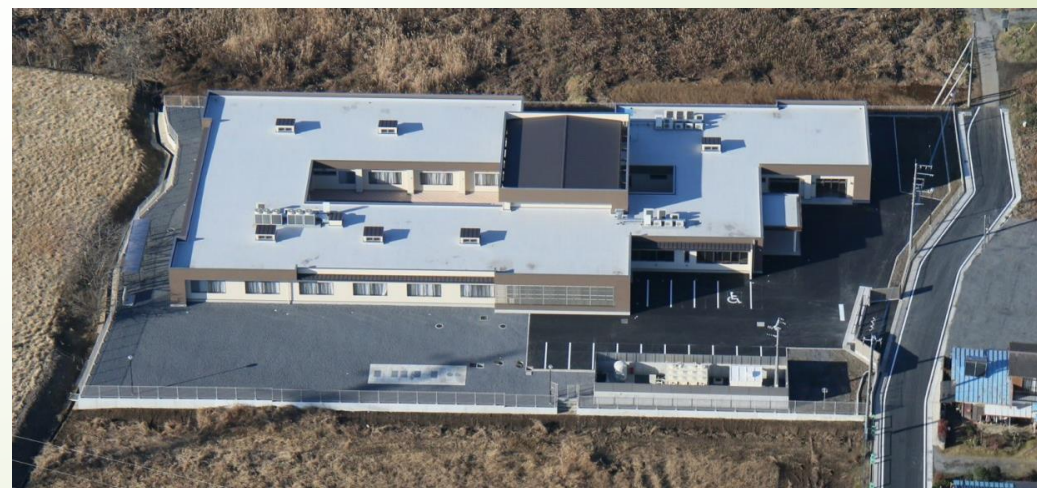
施設概要

沿革

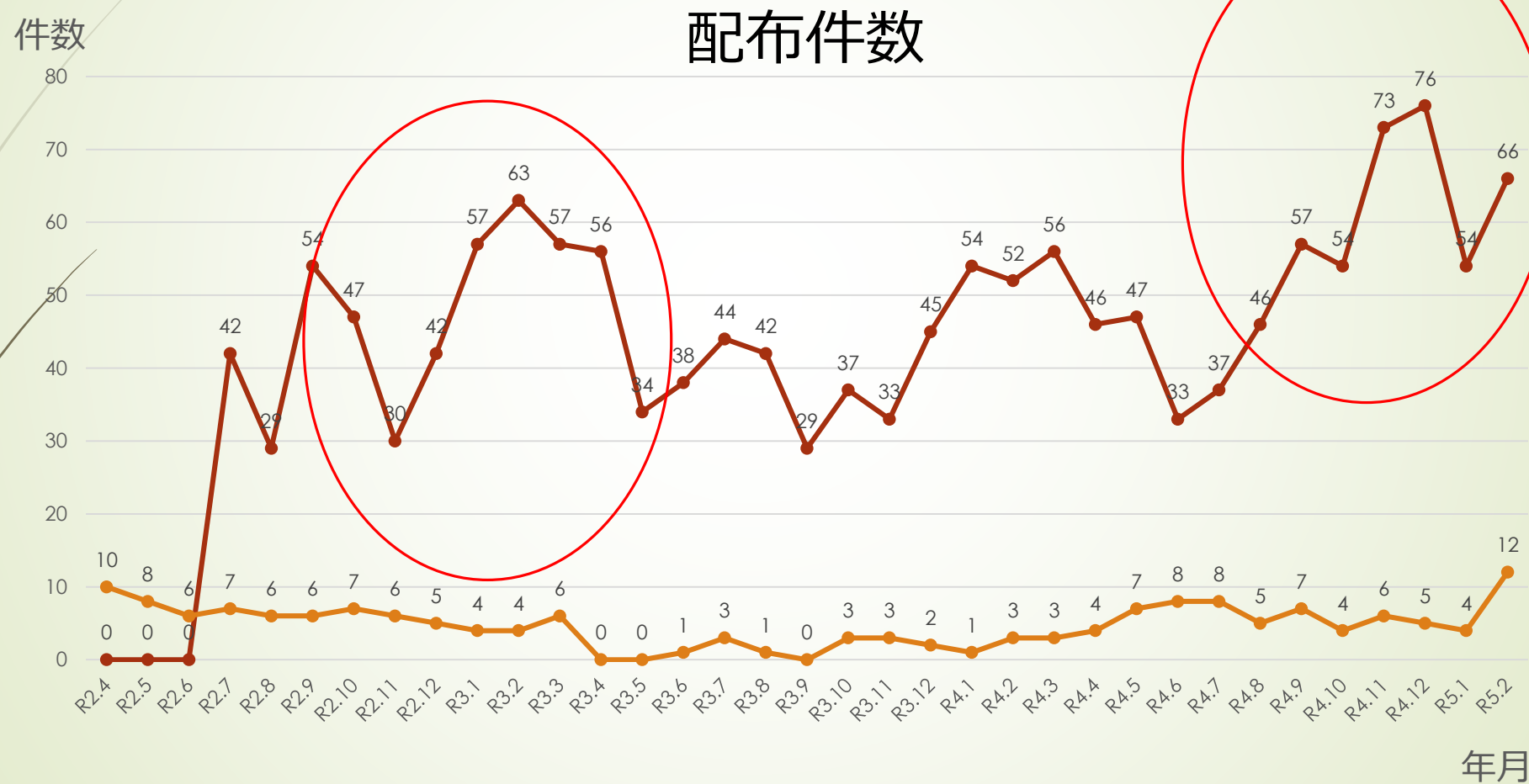
2016年 8月31日 社会福祉法人三松会 認可
2017年12月26日 救護施設フルーツガーデン認可
2018年 1月 4日 救護施設フルーツガーデン開所
2022年 4月 1日 居宅生活訓練事業開始

定員 60名
職員 31名

入所者年齢 29～88歳 平均年齢66歳
入所者内訳 身体障がい 9名、精神障がい 7名
重複障がい 42名、その他 11名



配布実績



配布の様子

- ☆ 社協を通し個人へ配布
- ☆ 担当ケアマネージャーを通し
高齢者に配布
- ☆ 「国民年金で一人暮らしの生活
は大変です」と依頼者から。



* 写真の掲載についてご本人の同意を得ています。

子ども食堂 へ配布



* 写真の掲載についてご本人の同意を得ています。

配布会

- ☆ R3.12.14 きずなの配布会 32世帯
- ☆ R3.12.25 クリスマス配布会 200名
- ☆ R4.5.5 子どもの日お菓子配布会 300名
- ☆ R4.11.5 コロナ禍でお困りの方配布会 150世帯
- ☆ R5.3.26 ひとり親等こども応援配布会 150名

- ☆ R4.12 クリスマス配布会コロナ蔓延のため中止



フードバンクさの 150セット限定 配布会

コロナ禍で生活に
お困りの方が対象となります。

日時：令和4年11月5日(土)
時間：午前10:00~12:00
場所：救護施設フルーツガーデン駐車場
 (裏面の地図をご確認ください。)
**内容：お米、レトルト食品、やさい、マスク、
 生理用品等の無料配布**

当日も受け付け可能ですが、できるだけ事前予約をお願いします
☎ 080-7712-1345
 予約受付日 月曜~金曜日まで 当日、時間に都合がつかない
 予約受付時間 AM8:30~PM5:30 場合はお気軽にご相談ください

~もったいない食品を
ありがとうございます~

救護施設フルーツガーデン HP
からもご確認できます。

主催：フードバンクさの
後援：佐野ライオンズクラブ
フードバンク北関東

子どもも応援
フードバンクさの
配布会

生活に不安を感じている場合は
二人で来てくださいませんか？

〈配布対象者〉
 ・15歳以下の子どもがいる家庭
 ・150人以上が同居している等々

〈配布内容〉
 ・お米
 ・レトルト食品
 ・お菓子類
 ・インスタント類 etc.

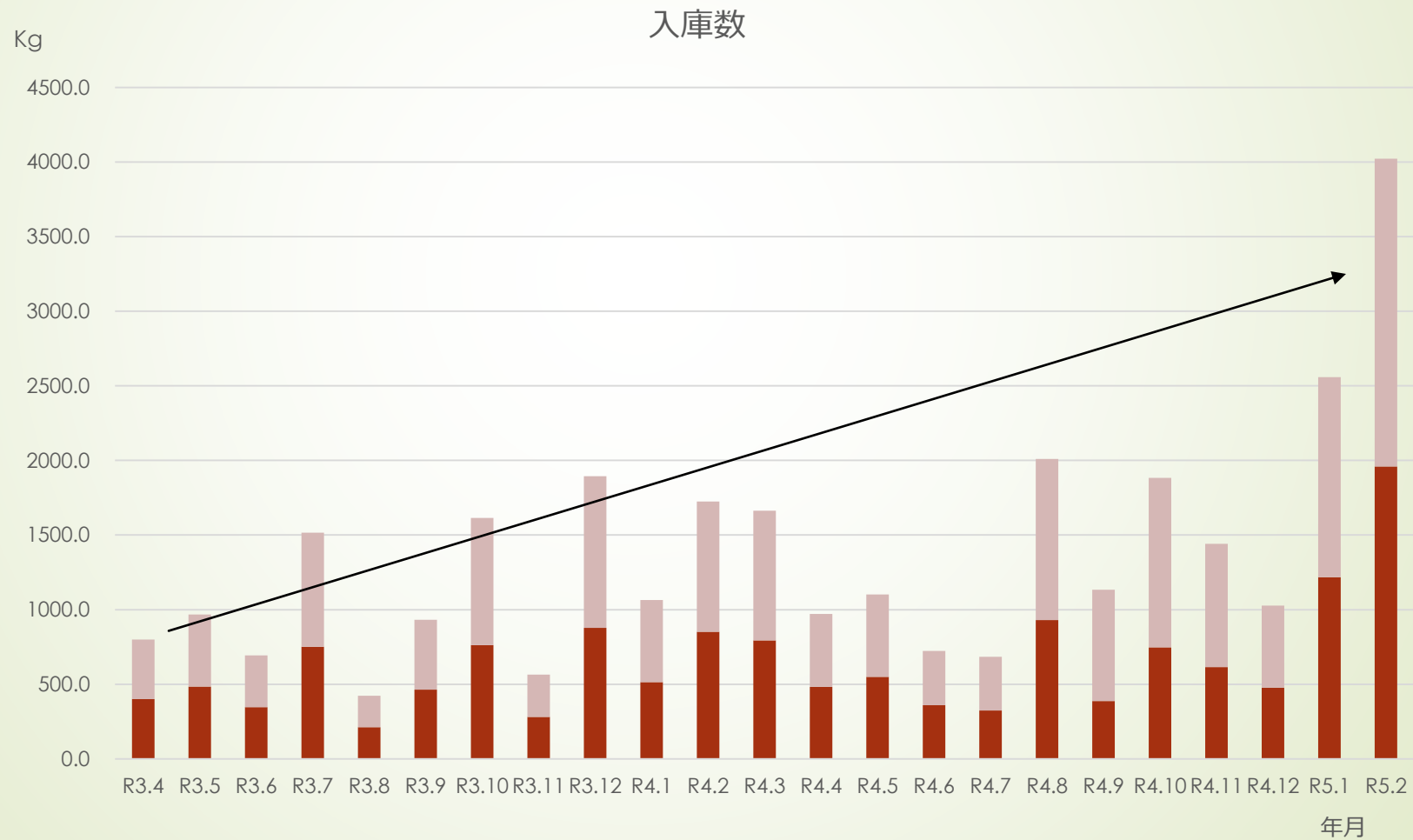
当日も受け付け可能ですが、基本的に事前予約をお願いします
 ☎ 080-7712-1345
 予約受付日 月曜~土曜日 予約受付時間 8:30~17:30
 当日、時間に都合がつかない場合はお気軽にご相談ください

〈日時〉
3月26日(日)
10時~12時

〈配布場所〉
 救護施設フルーツガーデン
 栃木県佐野市大石上 2700 番地



入庫数



フードドライブ

各家庭で使いきれない未使用食品を持ち寄り、それらをまとめて寄贈する活動

施設

☆ R3.1.15	イオンモール佐野	10 kg
☆ R3.12.14	フルーツガーデン	35 kg
☆ R5.1.6	佐野高校	7.2 kg
☆ R5.1.14	イオンモール佐野	25 kg

R4.11 にじいろまつり予定はコロナ蔓延のため中止

個人

令和2年度	5 件	215.0 kg
令和3年度	23 件	398.3 kg
令和4年度	36 件	1459.3 kg



配布会から見た事



- ・ **貧困の問題は、様々な環境因子が関係している。**

ひとり親家庭、ヤングケアラー等
コロナ蔓延から失業し孤立化
年金の少ない独居老人等



- ・ **貧困の問題は、口に出せない人がたくさんいる。**

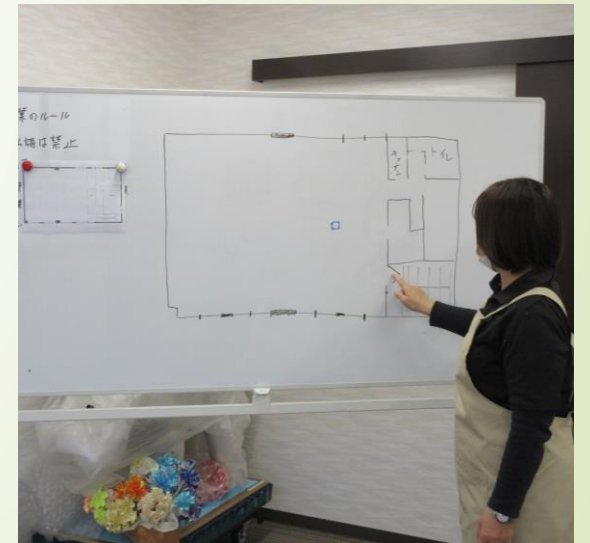
公的機関に行く前に聞いてほしい。
知り合いだからこそ安心して話が出来ない時がある
ちょっとした愚痴を聞いてほしい
相談する場所がわからない



“フードロスの削減と並行して、地域の貧困問題にも取り組もう”

フードバンク事業を拡大し 地域の新たな取り組みを開始

- ☆ 今後に向けて話し合いを重ねた。
- ☆ **改善課題**
 - ・柔軟な対応ができるように担当職員の配置が必要
 - ・倉庫が狭い 場所の問題
 - ・専用の冷蔵庫、冷凍庫があると受入れの幅が広がる
 - ・入所者の就労訓練の場所作りが必要



施設としてできる事



☆ **必要な時、必要な人に柔軟に対応することが重要課題**

- ・ 貧困家庭に対しては、困ったときに食品をお渡しし、考える時間を持つことで、安心して方向性を見つける。
- ・ 公的の窓口に行き、決定するまでに時間がかかる為、その間安心して過ごせること。
- ・ 大変な今、食品を渡す。

☆ **施設内の課題点**

- ・ 食品ロス、配布食品に対しては、食品の搬入、会社との連絡やその他機関からの受け入れがスムーズにできる。
- ・ 食品管理
- ・ 話が聞いてもらえる環境作りも必要。



新たな拠点と職員配置



☆ 目標 フードバンクの拡大と安定

困ったときに柔軟に対応することができるシステム作り

☆ 人員配置

専任者1名（支援員）移動し専任とする

理由・担当者を配置することで荷受け、配布、管理がしっかりできる。

- ・職員については、配置移動とした
- ・施設利用者の就労にむけた訓練場所、日中活動の就労体験の場所。
- ・交流スペースを実施するにあたり、介護福祉士を選定。

（必要な時には介護として指導できる）

- ・施設職員（精神保健福祉士、社会福祉主事、看護師、調理師）も必要時に支援できる体制
- ・様々な課題を持つ方に対しては、話が聞いてもらえる環境作り



新拠点外観

(改装前)

栃木県佐野市大町2739-5

施設から	約4 k m	自動車	10分
市役所から	約850m	自動車	3分
佐野市社協から	約900m	自動車	3分



4階建ての1・2階部分を賃貸契約

事務所と倉庫

☆ 工事への着工が大幅に遅れ、現在改装中

☆ 改装前の様子と新拠点の構想

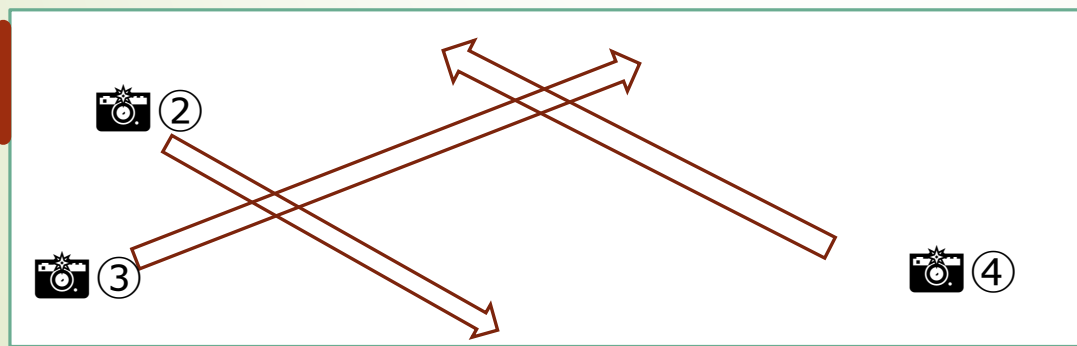
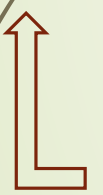


1階 ⇒ 旧駐車場スペース
中央部分に壁とドアを作り倉庫に改築予定
床に防水塗料を塗布
パレット等を設置し高くする
物置台・棚設置
業務用冷蔵庫 冷凍庫搬入

2階 ⇒ 事務所及び交流スペース



入口



100.32m²



⑤



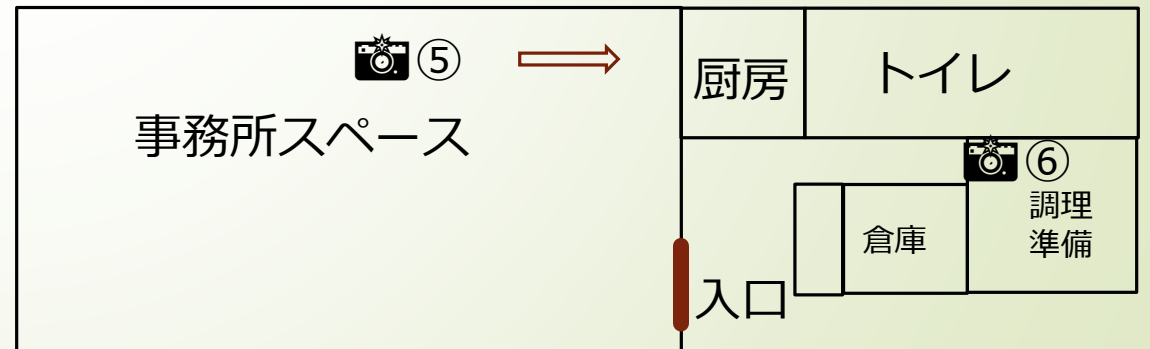
2階フロアーから続く部分

⑥

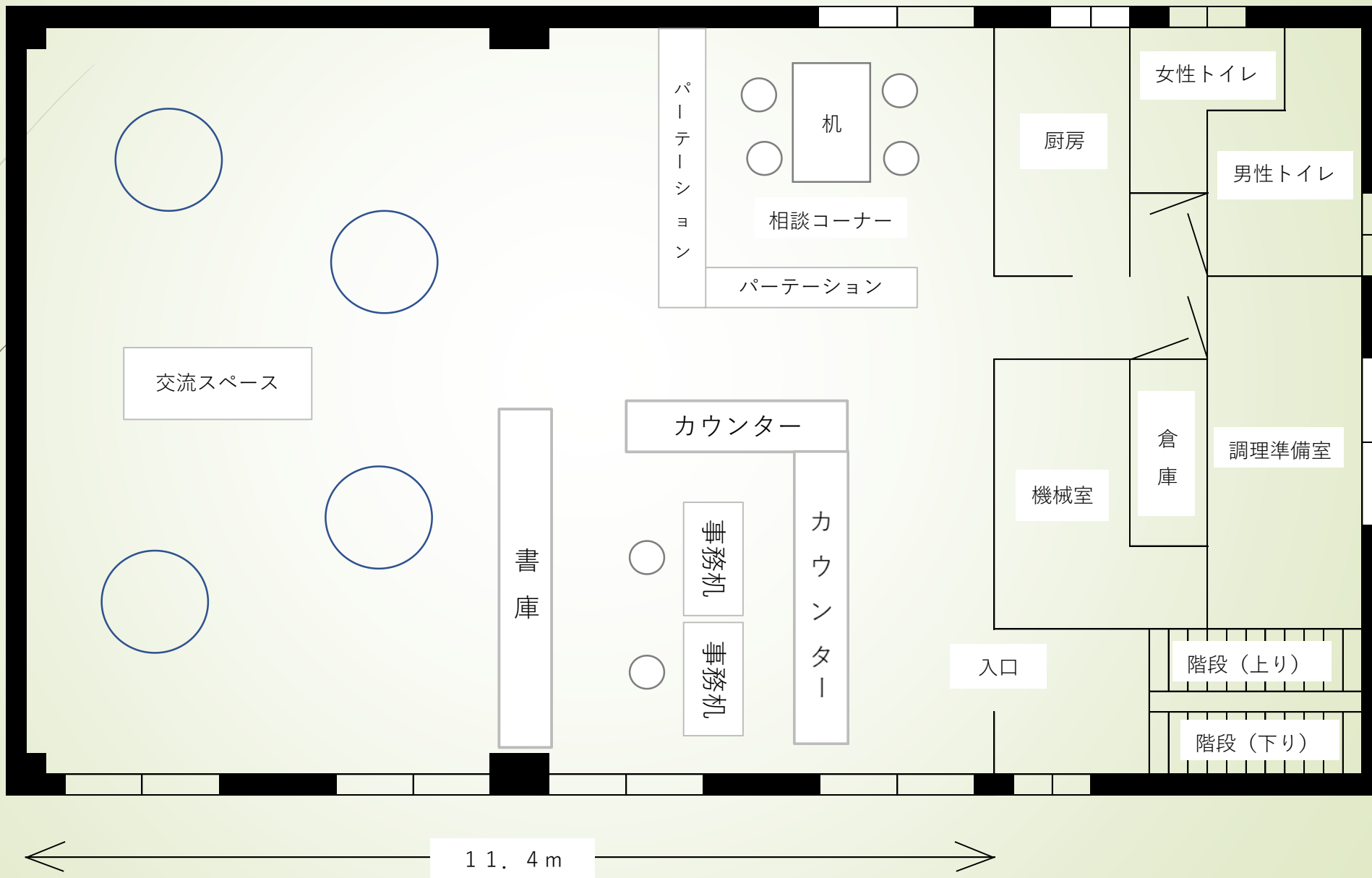


配膳スペース

2階フロアーは、交流の場としての役割も考え、お茶の提供や食事の提供ができるように配膳スペースも作ります。



配置予定図



一日の流れ

- 8 : 30 救護施設内で職員朝礼
- 8 : 45 出発
- 9 : 00 荷物の受け入れや回収（入所者同行）
- 12 : 00 昼休憩
- 13 : 00 事務処理 食品整理 フードドライブ受け入れ
随時配布（入所者同行）
- 16 : 00 終了
- 16 : 30 施設に帰所 残務
報告
- 17 : 30 業務終了



週間計画

曜日	午前	午後
月曜日	配布等	事務所
火曜日	荷受け及び配布	事務所
水曜日	配布等	事務所
木曜日	配布等	事務所
金曜日	荷受け及び配布	事務所
土曜日	休み	休み
日曜日	休み	休み

☆ 荷受け

フードバンク北関東
大型商業倉庫

☆ 配送先

施設子ども食堂 等
個人

☆ **午前** 荷受け及び配布

午後 個別配布、事務処理、倉庫整理

☆ **入所者と同行し、就労に向けての訓練を実施**



年間予定

月	内容
4月	趣旨説明（市担当部課 社協、 包括支援センター 施設 子ども食堂等）
5月	子どもの日配布会（子ども応援配布会）
6月	食品配布会（貧困家庭）
7月	フードドライブ
8月	
9月	食品配布会（貧困家庭）
10月	フードドライブ
11月	
12月	食品配布会（貧困家庭）クリスマス配布会（子ども応援）
1月	フードドライブ
2月	
3月	ふれあい食堂（子ども応援 高齢者応援）

今後について

☆ **フードロス対策**

企業の開拓 フードドライブの周知と実施

☆ **貧困家庭へ食品を通じた応援**

配布会の実施 社協を通じた個別相談

緊急時の個別対応

☆ **子ども応援**

子ども応援配布会の実施と家族への周知

子ども食堂へ食品配布

☆ **社会から孤立した人の居場所の確保**

困ったとき気負わず気軽に話ができる場所作り

福祉食堂 子ども食堂 年齢性別問わず気軽に集まれる場所作り



最後に

- ☆ 公的な窓口に行く前に、悩んでいることを言葉に出すこと、人と人の会話の中で暖かさに触れることで安心できる場所があること。
- ☆ フードバンクの食品を通して、人と人が繋がれる。

フードバンクさの

貧困家庭への支援、フードロス対策「もったいない」を「ありがとうございます」を目的として実施してきました。これからは、フードバンクの拡大と貧困の後ろに見え隠れしている問題にも目を向けるべきと考えます。

看護職、福祉職、介護職、栄養士、調理員など、職員の持っている力とボランティアの協力を合わせ、地域共生社会へ向けて貢献ができるように努力していきたいと考えます。

全国救護施設協議会様にはご支援をいただきありがとうございました。



ご清聴
ありがとうございました

